

LA NATURE INVISIBLE ET SECRÈTE DU CHÂTEAU DE VERSAILLES

講演者

グレゴリ・ケネット | ヴェルサイユ・サン＝カンタン＝アン＝イヴリス大学

2025年11月28日(金)
18:00—20:00(17:30開場)

東京・日仏会館ホール

参加無料・日仏同時通訳付

司会 坂野正則 (上智大学)

産業社会の生態学的転換は、地球を居住可能な場所として維持するために不可欠の課題である。しかしそれは、すでに地球環境に関心をもっている少数の人々を越えて広がっていくのが難しいという壁に突き当たっている。フランスの記念碑や歴史的建造物は、人々の心に欲望や感情、誇りを喚起するものである一方、その文化遺産は膨大でありながら十分に活用されていない資源である。

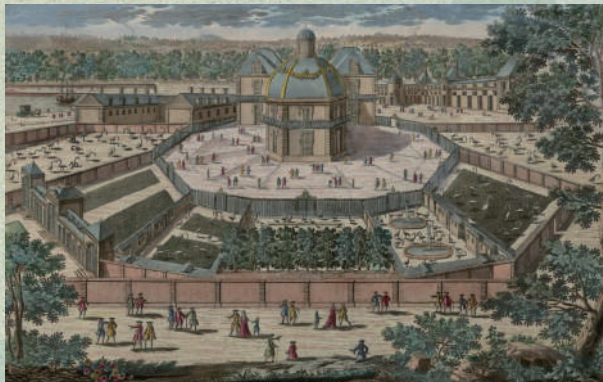
この講演は、ヴェルサイユ宮殿の環境史を手がかりに、国民的記念建造物が「自然」についてどのような歴史を語るのかを見直す必要があることを考えるものである。現在広く流布している物語は、歴史的に誤っている。なぜなら、それらは、もはや人が住まなくなり博物館へと変容した場所に依拠しており、その過程で人間と領域を結びつけていた物質とエネルギーの流れという「生きた代謝」を失ってしまったからである。ところが、こうした代謝の痕跡は史料に豊かに残されているのである。

グレゴリ・ケネット | Grégory QUENET



研究分野は、近世フランスの環境史・自然史、環境人文学分野での歴史学の再検討を实践。2012年より、ヴェルサイユ・サン＝カンタン＝アン＝イヴリス大学にて、フランス初の環境史講座の教授就任(現在に至る)。2022年から5年間、フランス大学研究院 (Institut Universitaire de France) に所属。2024年から、フランス・カトリック系研究機関「コレージュ・ド・ベルナルダン」Collège de Bernardinsにて、環境人文学研究部門で共同ディレクター。代表的な著作として、*Les Tremblements de terre aux XVII^e et XVIII^e siècles. La naissance d'un risque* (『17・18世紀における地震リスクの誕生』), Seyssel: Champs Vallon, 2005. *Qu'est-ce que l'histoire environnementale ?* (『環境史とは何か?』), Ceyzérieu: Champs Vallon, 2014. *Versailles, une histoire naturelle* (『ヴェルサイユの自然史』), Paris: éditions La Découverte, 2015. *L'Ecologie des musées: Un après-midi au Louvre* (『美術館の生態学: ルーヴル美術館でのある午後』), Paris: Edition Macula, 2024. *Histoire de la pensée écologique* (『エコロジー思想の歴史』), Paris :PUF, 2025.

申し込みは
こちら



「ヴェルサイユ動物飼育館でのサロンの眺望」
(アヴリス作、1770年代、銅版画)



「ヴェルサイユ城館にある柑橘園(オランジュリ)の眺め」
(アルグラン作、1690年代、ヴェルサイユ宮殿所蔵)

主催 日仏工業技術会・日仏歴史学会
(公財)日仏会館
協力 都市史学会ワーキング・グループ
「都市における文化＝空間構造から捉える全体史」
助成 (公財)日仏会館・サントリー文化財団研究
助成「『歓待インフラストラクチャー』から読み解く近世ヨーロッパ都市文化＝空間構造の比較研究」(研究代表者・坂野正則)



Société Franco-japonaise
des Sciences Historiques
日仏歴史学会



文化＝空間構造論 WG
WG of "culture-space" structure



ヴェルサイユ宮殿の
秘められた自然
見えざる

日仏会館助成講演会



「狼犬に囲まれたロジカの遺骸」(デボルト作、一七〇二年、ヴェルサイユ宮殿所蔵)